

平成26年度宮城県献血推進協議会議事録

平成27年1月27日午後1時30分から、KKR ホテル2階青葉において、平成26年度宮城県献血推進協議会を開催した。

- | | |
|-----------------------------|---|
| 1. 開会 | 薬務課佐々木副参事が協議会の開会を告げた。 |
| 2-(1). 薬務課課長あいさつ | 薬務課佐々木副参事が薬務課課長のあいさつを代読した。

薬務課佐々木副参事が情報公開条例第19条に基づき、協議会は公開されることを報告した。協議会条例第4条の規定により、委員20名のうち14名が出席で、定足数である半数を満たし、会議が成立することを報告し、出席委員・事務局を紹介した。 |
| 2-(2). 会長あいさつ | 張替会長のあいさつ。 |
| 佐々木副参事 | それでは次第に基づきまして、議事に移らせていただきます。議長は、宮城県献血推進協議会条例第4条第1項の規定に基づきまして、張替会長にお願いいたします。
それでは、議事進行につきましてよろしくお願いいたします。 |
| 3-(1). 議事録署名人の専任張替会長 | それでは、議事に入る前に、今日の議事録署名人を、中川委員と笠原委員にお願いしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。 |
| 3-(2). 平成25年度献血推進実績について張替会長 | それでは議事に入らせていただきます。平成26年度献血推進実績について、薬務課及び血液センターから報告をお願いします。 |
| 事務局（薬務課） | 【資料 冊子】『宮城県の献血』より
以下について報告した。 <ul style="list-style-type: none">・平成25年度献血状況について・平成25年度献血推進事業の概要について・平成25年度都道府県別献血状況について |
| 事務局（血液センター） | 【資料 冊子】『宮城県の献血』、パンフレット「宮城県赤十字血液センター施設概要」より
以下について報告した。 <ul style="list-style-type: none">・平成25年度供給状況について・平成25年度献血状況について・平成25年度献血推進事業の概要について |
| 張替会長 | はい、ただ今の平成25年度実績について、ご意見、ご質問はありますでしょうか。
献血率が34番目でしたっけ。これは、総人口に対しての献血者数を単純に割った、献血者数を総人口で割ったものですか。 |
| 事務局（薬務課） | そうです。正直申し上げて、献血可能者数で割っているわけではないので、一概に宮城県が本当に低いのか、ちょっと定かではないですが、全国の統計では一応人口割ということでございます。 |
| 張替会長 | 可能な人数で割った方が、実態に合っていると思うんだけど、ただ、それにしても、秋田とか割と宮城より高齢化している県がかなり上に来ているので、それ |

で補正しても、やっぱり宮城県は、あんまり多くないのではないかと思いますけど、何か理由はあるのですか。

事務局（血液センター）

先ほどもご説明させていただきましたとおり、若い方、うまく取り込めていない10代・20代の献血数をもっと上げないと、数字は上がっていかないだろうということは考えてございます。

張替会長

割と宮城は仙台に若者が集中しているので、都市がまばらなところよりは、比較的行き易いと思うのだけれども、それでもなかなか上がらないのは、何か理由があるのですか。

事務局（血液センター）

仙台市に大学があったり、高校があったりと、集中していると思うんですけれども、そこをうまく取り込めてないということがあるかと考えてございます。

張替会長

はい、ありがとうございます。その他、ご意見はございますか。よろしいですか。

それでは、今の平成25年度献血推進計画実績について、よろしいでしょうか。はい、ありがとうございます。

3-(3) 平成26年度献血推進事業
及び献血推進状況について
張替会長

それでは、次に、平成26年度の献血推進状況について、薬務課と血液センターから、ご報告をお願いします。

事務局（薬務課）

【資料1-(1)「平成26年度宮城県献血推進計画」及び資料1-(2)「平成26年度献血推進状況<事業実績>」】について説明

事業実績説明でアニメCMの放映が出来ず、準備出来次第の放映とする

事務局（血液センター）

【資料No.1-(2)「平成26年度献血推進状況<事業実績>」及び資料2「平成26年度 献血実績について」】について説明

張替会長

説明は以上ですか。ご質問を受けたいと思います。平成26年度推進計画と状況について、資料の1-(1)表1の単位をもう一度説明していただけますか。計314,000の単位は何ですか。

事務局（血液センター）

換算単位でございますが、200mLの献血で1単位という計算でございます。

張替会長

単位ですか。これは。

事務局（血液センター）

はい、単位換算、単位でございます。

張替会長

単位。血漿板製剤に関しても155,000単位。

事務局（血液センター）

さようでございます。

張替会長

わかりづらいですね、これ、数が多いのか少ないのか。単位でしか換算のしようはないのですか。これわからないですよ、単位と言われてもね。なかなか普通の方には単位と言われてもわからない。でも、例えば1本2本とかだとわかると思うんですけど、どうなのでしょうね。

事務局（血液センター）

平成26年度の血小板の数字を計上するにあたっては、1単位を何本、2単位を何本、5単位を何本と単位別に計算しています。血小板製剤の大半を占めるのが、5単位製剤、10単位製剤、15単位製剤、20単位製剤の4製剤になっていて、

特に本数が多いのが10単位製剤です。血小板成分献血をして製品化される多くが10単位製剤と考えてください。その10単位製剤の割合が、155,000単位中、人数にして13,092人分ということです。

張替会長

たとえば、10単位が何本でたとか、5単位が何本でたとかそういう書きの方がむしろ、わかりやすいんじゃないですか。トータルで単位で出されても、皆さん、何本製造されたかということはわかんないですよ。

事務局（血液センター）

はい、供給本数のところは、製剤規格別にもう少しわかりやすく本数表示で。

張替会長

この400mLが90何%というのは、これは全血献血のうちの92.何%で、残りの7.6%は、200mLということですか。

事務局（血液センター）

さようございます。

張替会長

いわゆる、何に対して何%なんですか。一般的に、単位が少しわかりづらいので、そこは、少しページをちょっと工夫して、委員の先生方は専門家ではないので、わかりやすいような単位で出してもらったほうが、わかりやすい。これ、200mLから400mLにシフトしているわけですか。目標はどんどん毎年200mLを減らすようにしていくわけですか。

事務局（血液センター）

はい、さようございます。

張替会長

今月は今のところ、目標はだいたい200mLから400mLにシフトは出来ていると考えていいんですか。

事務局（血液センター）

はい。

張替会長

はい、じゃ、CMいきますか。

(CM) を流す

張替会長

はい、今日のメインイベントが出てよかったです。これは、今年作ったけども、ただ放送は無理なんですよ。まだ、ホームページへのアップとDVDしかお金がまだ。

事務局（薬務課）

はい、限られた予算というなかでやっております、今年はCM作製だけというところでございます。来年度、一応予算要求して、この後もご説明させていただこうと思っていたのですが、来年度、何回放送出来るかわからないんですが、テレビ放送できる予算が一応、つく予定になってございます。

張替会長

今日おいでの委員の先生方のほうで、ぜひこういう事でこれを使ってみたいとか、いろいろな職業の方がおいでになってるので、ご意見とか手あげをしていたら、たぶん、市町村にDVDを配ったり、ホームページにアップしても見ないですよ。せつかく作ったので、できるだけ目につくようなご提言をいただくと、作った甲斐があると、どうですかね。

まあ、市バスに売ったらどうだと言ったんですけど。あと、動画なので、もちろんテレビコマーシャルとかコポスタとかユアテックで流してもらってもいいと思いますし、ロフトの壁に流すのもいいんじゃないかと思うんですけど。そういう目に付くところがいいかと、この場ででもいいので、ご意見頂ければと。今のところ、テレビぐらいですか。テレビスポット買うの結構高いですよ。

伊藤孝代理 仙台市の地下鉄に流したらどうでしょう、動画とかあるんじゃないですかね。

張替会長 ありますよ。

伊藤孝代理 東京はありますよね。

張替会長 宮城県はどうですかね。学校のイベントで流してもらうとかね。

伊藤孝代理 これは、ルームでは流せるのですか。

事務局（薬務課） 大丈夫です。血液センターにも、DVDをお渡しするつもりでおります。

伊藤孝代理 それなら結構見てくれるのでは。でも、その時は、来てくれている人に対してという話かな。新しい人の開拓のためになると。

張替会長 はい、どうでしょう。

佐藤由紀子委員 今の二本目のところで、おばあさんが、「私は献血で助けられたから、私も献血するわ」っていうのがあったんですけども、輸血された経験のある人って、献血出来たんですけど。

伊藤孝代理 できない。

佐藤由紀子委員 できない。今のところ、ちょっと、間違えられる可能性があるような気がするんですけども。

事務局（薬務課） 一応ですね、今回のコンセプトといたしまして、今まで10年間続けてきた、愛の献血70字ストーリーを何とか映像化しようというのが目的でございました。その中で、10作品最優秀賞あったのですが、なかなかやっぱり、旭プロダクションというところといろいろは話し合ったのですが、映像化できるのが難しいということで、一本目はオリジナルですが、二本目は愛の献血70字ストーリーの最優秀賞をストーリー化したというところでございまして、確かにちょっと、誤解を招く恐れははああるんですけど、過去にそういう作品が受賞したという内容でございました。

張替会長 もう1回流してみますか。

(CM)を流す。

事務局（薬務課） すいません、ちょっと補足説明させていただきたいと思います。今、事務局が申しましたように、平成21年度の70字ストーリーの優秀作品でございます。本文を、そのまま読み上げさせていただきます。

『「献血に助けてもらったからじゃ。」「何で献血に行くん。」と聞くと、ばっちゃんはそう答える。今年、ばっちゃんは70歳。今度は私が献血で恩返し。』

というストーリーを映像化したものですが、それが、プロダクションに行ったときに、献血で助けてもらったからだという風になっているんですけど、取り方はいろいろありまして、自分が輸血をもらって、助けられたというのと、たとえば、ご主人が何か助けてもらったとかいう風に拡大解釈していただければいいなという思いもありまして、後は、このCMの持つ意味というのが、高校生とおばあちゃんということで、献血の可能年齢が16歳から69歳ということで、この年齢位まで献血出来るということと、自分のそういう善意を孫に引き継ぐという、世

代交代と言うところも狙っておりまして、改めて、若い人だけの献血じゃなくって、69歳、おばあちゃんになってもできると、そういったことを、あらためて認識していただける、ある意味、ちょっと角度を変えて、しかも、70字ストーリーを一つ形に出来たというような思いでおりますので。

張替会長

確かにね。

伊藤孝代理

あの音声をちょっと。

張替会長

そうそう、じいちゃんがとかね。

伊藤孝代理

じいちゃんとか、自分じゃなくて家族とか入れればいいんですよ。

渡部公代理

今、おっしゃたことは、実理はわかるんだけど、でも、厳しい。これは見ている方は絶対間違いを起こしますよ。

事務局（薬務課）

厳しいですか。間違えますか。

鹿野和男代理

保健所で担当していますけれども、保健所とか市町村にこれを配って、もし市民の皆さん、市民の皆さんが見て献血に行ったら断られたとなると、それだけでトラブル続出しますので、そこんとはやっぱり、トラブルがないようにしないと、矢面に立つ人たちが、気の毒だと思います。

阿子島佳美委員

70文字の表彰の作品からつくられたという意図はとてもよくわかりました。ちょっと、誤解を招かないように、そこは一言コメントをつけていただければ、放送するのはとてもいいと思います。16歳ということですので、各市町村に渡すだけじゃなくて、高校とか、具体的に大学とかそちらの方で、新入生とか何かのパンフレットを配って頂くときに、一緒にちょっと見てもらうように、テレビ放映がまだだったら、ぜひ、今年の四月とか、新入生向きに配布していただけるとより役立つんじゃないかと思います。

張替会長

学校、高校関係の委員の先生方もいらっしゃっていますので、ぜひご活用いただければ。

中川國利委員

学校関係なんですけれども、今、高校献血、大学献血、非常に厳しい状況なんです。この5年間で宮城県で56校から40校になっちゃったんですね、献血バスが入れる所が。それで、ぜひ、校長会とかですね、保健師さんとかの会とかですね、私が行って呼びかける機会を設けていただければ。献血のことを若い人たちに、出前講義も含めて、そういう機会を設けて頂きたいと思うんです。本当に今、高校、大学は非常に厳しくなっています。東北大学にもなかなか献血バス入れなくなっています。川内にぜんぜん行ってないんですよ。行けないんですよ。

渡部公代理

何で入れないんですか。入れない理由があるんですか。

中川國利委員

あのですね、たとえば福祉大学ですと、雪を溶かすための電線が入ってるから、大型バスは入れないとかですね、片平・川内も結構、今工事中とか、いろんなことがあって、結局なかなか入れないんです。それから、高校の場合は、モンスターペアレントの存在とかですね、親が献血を同意しないと、同意書がないと献血できないと、非常に厳しくなっています。学校側の方も、そういうトラブルをできるだけ控えたいということで。

張替会長

はい、よろしいでしょうか。

渡部公代理	ちょっといいですか。
張替会長	はい、どうぞ。
渡部公代理	献血のバスとかですね、常設のアエルとか、そういったその人口とか、そういった比率に関して、他県よりバスが少ないとか、そういったことはあるんですか。条件が一緒なのかどうかということをちょっと。
中川國利委員	<p>献血バスに関して言いますとですね、1日バス1台あたりの献血者協力者数が、400mLになりますけど、真ん中が全国平均の県なんです。これ、県別なんです。多いところだと、1日57人くらい協力してくれてたんですけども、この左側、宮城県はですね、32.7人です。多いところの半分なんです。ほんとに、献血バス1日1台あたりの献血協力者数が、みな赤いのは東北地方なんですけどね、非常に効率が悪いというか、なかなか難しい状況です。</p> <p>献血ルームに関して、青葉、アエル、宮城県はまだいいですけども、なかなか苦戦しています。1日30人を切っています。全国平均より、ずっと少ないです。</p>
笠原純子委員	<p>薬剤師会の方に質問が来るのは、献血に行けない人間、たとえば、薬を飲んでる人間は、どのくらい行けないんだという問い合わせが来たりするんですが、実は、宮城県の日赤さんのホームページは、そこら辺があまり具体的ではないんですね。それに比べて、大阪府は具体的に書いてあったりするものですから、もう少しはっきり、たとえば行けない人は残念ながら行けないんです。行ける方にぜひ声掛けしてくださいみたいな感じでも、そこを線引きをした上で、きっちりとホームページにでも書いていただくと、ありがたいかなという意見が情報センターの方から出ておりました。</p>
中川國利委員	ありがとうございます。高血圧の薬とか、高脂血症の薬の場合はどうかということですね。
事務局（血液センター）	そういったご意見も頂いておまして、今、言い訳ではないのですが、本当に取り進めているところではございまして、大阪や高知とか薬のことが細かく載っているホームページもございますので、今、準備させていただいてるところであります。
張替会長	<p>はい、いろいろご意見ありがとうございました。ぜひ、意見をご活用して、推進に繋げて頂きたいと思えます。</p> <p>それでは、平成26年度のいまの議案につきましては、ご承認いただくということで、よろしいですか。</p> <p>はい、ありがとうございます。</p>
3-(4). 平成27年度献血推進計画（案）について	それでは、平成27年度の献血推進計画案について、薬務課と血液センターからご説明をよろしくお願いたします。
事務局（薬務課）	【資料3「平成27年度宮城県献血推進計画（案）」】について説明
事務局（血液センター）	【資料3「平成27年度宮城県献血推進計画（案）」及び資料4「平成27年度の採血計画について」】について説明
張替会長	<p>はい、いかがでしょうか。</p> <p>この資料3の献血目標(2)の下のところ、しかし以降というのは、やっぱり説明がわかりづらいので。原料血漿確保よりも、血漿成分採血を優先するという単語の意味がわからないので、それがなぜそういう理由で、宮城がこういうふうに</p>

なるのか、もう少しわかり易く、説明してもらえるといいのですが。

事務局（血液センター）

宮城県につきましては、日赤が平成24年度から広域事業運営体制を始めたことで、東北ブロック血液センターという製造所が、宮城県赤十字血液センターの敷地内にできました。血漿製剤につきましては、献血された血液を早い時間に分離をして製造しなければいけないという制約があり、宮城県は製造所に一番近い県として、血漿製剤を他県の分も作らなければならないという役割があります。その中で、原料血漿の確保についても、制限・制約がありますので、当県はFFPという新鮮凍結血漿を主に製造するということですが、わかりづらいので、次回からは訂正と申しますか、見直したいと思っています。

張替会長

いわゆる全血から血漿製剤を作るのは、県外から持ってきた血液で宮城県が作るので、あんまり宮城県の中では採らないと。で、宮城県では、はじめから、成分で採ったものを作るという、そういう意味ですか。

伊藤孝代理

あの、ご説明します。普通の一般的に血液というのは、全血から採れば、採血から24時間以内にきちっと成分に分けたりいろんなことをしなければいけません。ですから、全血採血をしたものは、東北6県どこで採っても、何時に採っても、翌日までに、きちっと運ばなければいいんですけども、仙台が製造センターですと、たとえば、北3県、秋田、青森、岩手、それから、福島の会津、それから磐城なんかは、採血してから持ってくるまでに時間がかかるんですよ。原料血漿の中の新鮮凍結血漿の分と、それから、凝固因子製剤というものは、6時間とか8時間以内に処理しなければいけない。そうすると、午前中かせいぜい午後の13時ぐらいまでに、仙台に運ばなければいけないと無理なので、北3県などには、時間が掛かってもいいものだけを割り当てて、近いところの山形と仙台市で採血したのは、すぐに処理しなければならない製剤を作る方に割り当てるといって、採血分担をするということなんです。

それで、遠いところは採らなくていいというわけにはいかないですよ。これは、国の目標として、何県に何人にと割り当てると同時に、血液センターはそれに基づいた予算を組みますので、仕事をしなければ、予算も来ないということになりますから、いろいろな制約があるんですね。ですから、なるべくそこをきちっとやれるようにということでこの表が出来てくると。

張替会長

次回もう少しわかりやすく書いて下さい。

あとは、今のシステムのこともあるし、ニーズもあるので、400mLにする、もしくは、その成分献血の血漿分を上げるという目標はわかるんですけども、これはどういう風にして方向付けるんですか。献血者の方に説明して、”こっちの方にしてください”って、お願いをして、そっちを増やす、それが、具体的な方法なんですか。

事務局（血液センター）

成分献血を増やすという取り組みでございますけれども、やはり、献血ルームが主体となって行くかと思っておりますので、まず、若干ではございますけれども、全血のルームでの採血を抑えまして、そちらを成分のほうに協力いただくと計画は立てております。

あと、400mLをどのように増やして行くかという事でございますけれども、200mLから400mLへの切り替えというところは、うまく進んでいるところではございますけれども、今後、企業様・事業所様にお邪魔した時の献血に関しては、できる限り400mLでのご協力ということを前提にお願いさせていただくというところで、400mL献血の確保して行きたいと考えてございます。

張替会長

特にその400mLと200mLの謝礼を変えるということではないんですね。お願いをしていくということですね。その他、ご意見、はい、どうぞ。

大内修道委員

過去にはですね、県単位の献血、製剤、そして供給ということでしたけども、数年前からブロック制ということになりまして、すべてが仙台市で製剤を行うと、先ほど、伊藤所長さんのほうから、すみ分けをして北3県と南とのすみ分けをやっておりますけども、全体として、献血の血と供給と、バランス的にはどうなっているのか。過去ですと、宮城県が非常に使う供給数が多くて、間に合わなくて、他県から応援を頂いたということが過去にありましたけれども、ブロック内ですべてまかなっていつているのかどうか、この辺をちょっとお知らせいただきたいと思います。

伊藤孝代理

あの、ここ何年か震災のあとも含めますとですね、前後から含めますと、東北6県は常に血液が足りなくて、他のブロックの他県の方からいただくことが多かったのですけれども、昨年9月、10月ぐらいからは、十分に自分たちの県はまかなえるだけの赤血球はとれて、むしろ、かなりの血液を他のブロックに応援しているという形であります。

ただ一つ、血小板というのは、採血してから、4日間しか有効期限がないんですけれども、月曜日からはじまりますと、土曜日、日曜日は東北6県のルームではどこでも非常に採れるんですけれども、平日の木曜日、金曜日になると、その前に採ったものが足りなくて、どうしても他県から応援してもらおうというのが、現在も続いていますので、それを改善するために、午前中に血小板を献血してくれる人に呼び掛けて、来てもらえるような仕組みを考えておりますけれども、大分、改善はされております。

張替会長

よろしいですか。その他、発表はよろしいでしょうか。

それでは、平成27年度献血推進計画（案）について、承認していただいたということで、ありがとうございました。

その他何かなければ、事務局に進行をお返したいと思いますが、よろしいですか。では、事務局お願いします。

佐々木副参事

張替会長ありがとうございました。

みなさまには長時間にわたり熱心にご討議いただきまして、ありがとうございました。

引き続き、午後3時30分より、隣の会場『蔵王』において「献血者に感謝する集い」を開催いたします。座席表をこれからお配りいたしますので、会場への移動をお願いいたします。

これを持ちまして、平成26年度宮城県献血推進協議会を終了させていただきます。

審議内容を明確にするため、議事録署名人が記名押印した。

署名人

署名人